

福岡市の取組み

海の中の環境づくり

海底にきれいな砂をまいたり(覆砂)、船で鉄の道具を引っ張って海底を耕す(海底耕うん)ことで、貝などの生きものが住みやすい環境を整えます。



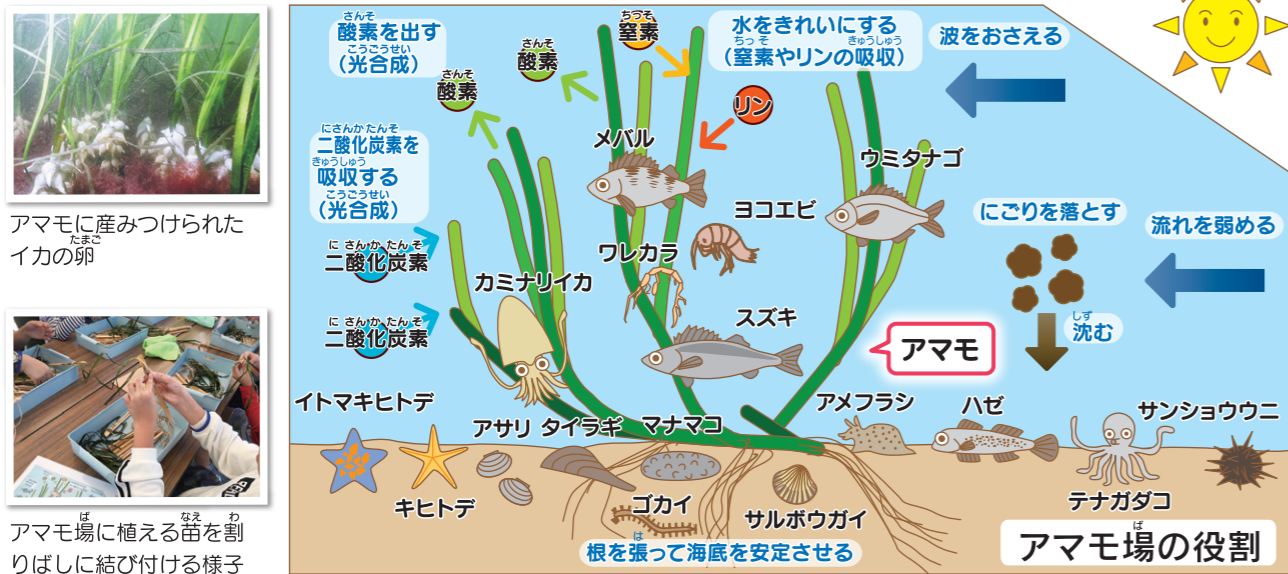
アマモ場づくり(エコパークゾーン)

和白干潟を中心とするエコパークゾーンは、全国有数の渡り鳥の飛来地であり、たくさんの種類の生きものがすむ自然豊かな場所です。

アマモは海の中で花を咲かせ、種をつける海草で、アマモがまとまって生えた場所を「アマモ場」といいます。アマモ場は生きものの産卵場や小魚のすみかになるこ

とから、「海のゆりかご」と呼ばれています。そのほか、二酸化炭素を吸収したり、水をきれいにしたりする役割も果たしています。

福岡市では、アマモの苗を植えつけるなど、アマモ場を増やす活動に取り組んでいます。



アマモに産みつけられたイカの卵



アマモ場に植える苗を割りばしに結び付ける様子

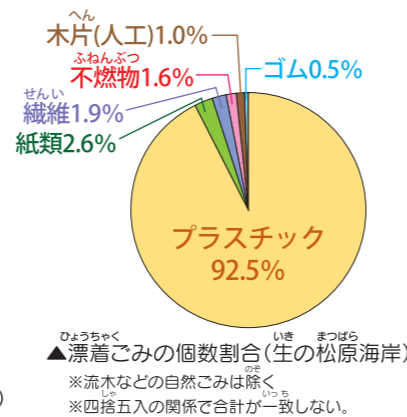
海ごみ(漂着ごみ)調査

2019(令和元)年6月に、海岸清掃で集めたごみ(漂着ごみ)の一部を分類し、その割合を調査しました。

今回の結果では、プラスチックごみの個数がとても多く、約9割をしめていました。食品などの包装に使用されるプラスチック製の容器や、ペットボトル、レジ袋など、わたしたちが日常生活でよく使っているものが多いこともわかりました。



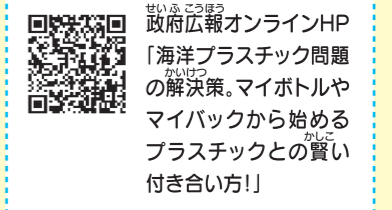
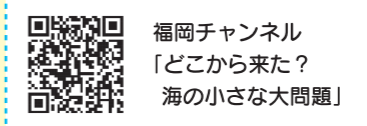
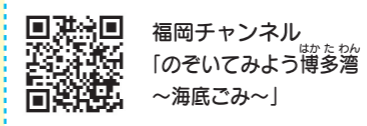
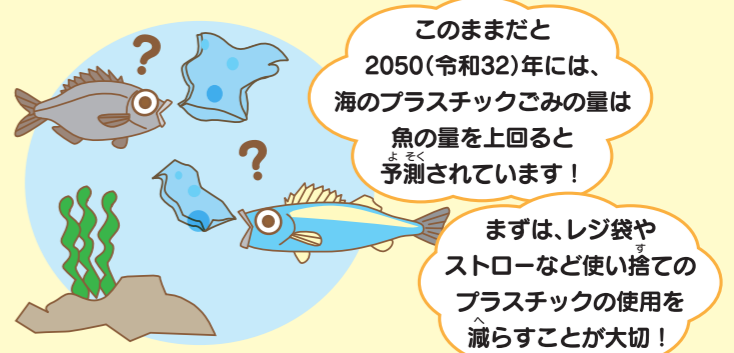
▲海岸にうちあげられたごみ(漂着ごみ)



コラム 海洋プラスチックごみ問題について学ぼう

海洋ごみには、海岸にうちあげられた漂着ごみや、水面や水中にういてる漂流ごみ、海底にすんだ海底ごみなどがあります。

その海洋ごみの多くはプラスチックごみで、その約8割は、街の中から発生した生活ごみが川などを通じて海に流れ着いたものだといわれています。



コラム 不法投棄パトロールについて

ごみ置き場以外の場所や山、海などに勝手にごみを捨てることを不法投棄と言います。これは、法律できびしくばっせられる犯罪行為

です。自然環境や街を守るために、地域や警察などの関係団体と協力してパトロールを行っています。



▲不法投棄された家電製品や家具



▲地域と連携したパトロール



▲市職員によるパトロール

わたしたちにできること 海や川を守るためにできること

- 水切り袋と三角コーナーを使って、野菜の切りくずなど細かいごみは取りのぞこう
- 食器を洗う前に、油よごれなどはふき取ろう
- シャンプー・リンスは使いすぎないようにしよう
- せんたく用の洗剤は使いすぎないようにしよう
- ポイ捨てをしないようにしよう
- 歩道や公園などのごみ拾いをしよう
- 海洋プラスチックごみ問題について調べてみよう